



あなたのその文章、誰のため？～あるライターの仕事～

日本で生活する方なら大多数が書けて読める日本語。そんなありふれた経営資源である「文章」でお金を頂くライターという職業はいったいどんなものなのか。ライター業を6年ほど続けている私の、仕事の流れをちょっぴりご紹介いたします。

● 1. それは、なに？ -情報の書き出し-

私は仕事で新商品や新サービスの取材をすることがあります。そこで気を付けているのが「静的な情報」と「動的な情報」です。静的な情報とはその商品やサービスの概要・仕様を指し、大きさ、形、値段や効果など基本となる情報をまず押さえます。その上で動的な情報として、作成のきっかけや想い、今後の展開についてなど、その製品やサービスに込められたものをまんべんなくお聞きしています。これが記事の根幹であり素材となりますので、事前にある程度項目を決めて取材に臨みます。

● 2. どこから誰に向けて？ -トンマナ-

次に原稿作成ですが、掲載する媒体やコーナーによってニュアンスを変えています。カタめの文章がよいか、ポップにするか、伝える先のターゲットはどこか、法人向けなら業界は…などなど。デザイン業界では一般的ですが、ライティングにもトンマナ（トーン&マナー）があるということですね。具体的には、語尾や単語を調整しながら原稿を仕上げていきます。専門用語などは業界向けでなければ調べて、よりわかりやすい説明を加えていきます。

● 3. 何度も読み直す -推敲-

実は、この工程に一番時間を割きます。“誰が誰に向けて 何を伝えたいのか”を意識しながら何度も読み直します。読み手の立場に立っておかしいなと思ったら消し、書き加え、入れ替え…はじめに書いた文章から盛大に構成が変わることなんて日常茶飯事。「文章書くの苦手だわ」と言われる方のほとんどが、この工程で挫折しているように見受けられますので、気恥ずかしいのはわかりますが、根気強く読み直すのがよいと思います。

● 4. 最重要 -文字数-

そして最も重要なのは、以上の項目などを踏まえて決められた文字数に収めることです。これが一番大変だったりします。引き算の感覚が重要です。

いかがでしたか？ 以上の内容はエントリーシートや履歴書を書く際にも活用できるかと思しますので、ぜひ参考にしてみてください。

(公開日：2022/3/11)

執筆者：Back-Pocket-Labo 桜井 寛之

経歴・専門

1985年生まれ。静岡大学人文学部社会学科卒 西洋史学（北欧）専攻。

普通自動車免許・高校教員免許（地歴公民）・英検2級。

小学校と同じだけ大学に在籍。家電メーカーの人事から広告代理店へ

転職したのち、フリーに。一時期、クラシック好きが高じてプロオーケストラ事務局に

入り、音楽家たちと親交を深めたこともある。右投げ右打ち。



※当内容は執筆者による見解を述べたものであり、記事や情報の内容に関しては十分な注意を払っておりますが、それらについての正確性や確実性、効果などを保証するものではありません。予めご了承ください。

※当記事の内容を含めた「就職または就職・活動」に関する質問事項がございましたら本サイトお問い合わせよりご連絡下さい。